看護部だより
ひまわり
２０１５年 １月
発行責任者：小牧加代子
VoL. 34

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます

2015年、未年にちなんでみんなが安定し「和」の一年になりますようお祈りします。年末・年始も仕事で病院を支えていただいた方々に心から感謝致します。院長先生のご挨拶で「今年はHospitalityを推進する」という言葉がありました。「マナー」は相手を不快にさせない最低限のルールですが、そこに心が加わることで深い心地よさや安心・信頼へとつながると言われています。その為には患者さんとご家族、職員相互のコミュニケーションを図る人其々の人間性・信条・感性等が重視されることになります。患者さんと深く触れ合えたと感じた瞬間を体験したことはありますか？その体験を大切にしながら積み重ねていく事で自身の看護観が形成され、仕事へ向かう時の姿勢へとつながります。

以前も紹介しましたが　″スキルだけでは満足しない　やさしさだけでは救えない″という言葉があります。スキルも知識もやさしさも持ち合わせて、はじめて専門職としての看護ケアになると思います。Hospitality（おもてなし）の心を大切に一人一人が自身で選んだこの仕事に誇りを持って、充実した一年にしていきましょう！

看護部長　緒方　くみ子

新年あけましておめでとうございます。

例年以上に、年末年始には患者数が増加し、病床管理が難しい状況が続いています。各病棟、各部署の協力に感謝いたします。昨年は、診療報酬改定に伴い、地域包括ケア病棟の新設、ＨＣＵ加算病床の変更などを行いました。2025年問題に向け地域包括ケアシステムの構築、各医療機関の病床機能の明確化、在宅医療の推進が求められ、この状況に応じ当院も今後さらにいろいろな変化も求められると考えています。

このような状況の中で昨年より経営企画室を中心に当院のビジョン、経営戦略策定に取り組みました。この方針にそって今後の看護部の方針も検討していくことになります。

患者満足度の向上とともに、看護師自身がやりがいを持って働けるような環境づくりを今後さらに検討していきたいと思います。

看護副部長　長井　砂都美

再就業支援研修を実施して

昨年、11月に鹿児島県看護協会主催による再就業支援セミナーを開催しました。鹿児島県看護協会川薩地区では、これまで地区の研修事業として再就業支援セミナーを開催してきましたが、今年度はナースセンターの事業として開催しました。11月6日には鹿児島県看護協会長平川涼子氏から「看護の動向、看護倫理について」をはじめとして、「医療事故防止の取り組み」「院内感染対策防止」「救急時の対応」の4つの講義を行いました。当院の感染管理認定看護師中野師長、集中ケア認定看護師猿楽看護師が講義を担当しました。この日には、潜在看護師5名、当院を含め各施設より就業1年未満の方11名が参加しました。また11月26日～27日は当院での実務研修を行い、潜在看護師3名が参加しました。参加者の離職期間は11年～28年と比較的長期でした。感想）「電子カルテ、看護記録、感染管理、医療安全、チーム医療医療機器など様々なものが進歩し、カルチャーショックを受けた。しかし病院や医療現場の現状がよく分からずなかなか就業に踏み切れなかったが、研修中に「大丈夫、できるようになりますよ！」とスタッフの方に声をかけてもらい自信が少しもて、１からはじめてみようと思った」このような感想を頂き、最終日の茶話会では話が尽きずに、終了時間を30分ほど延長していました。看護師復帰への第一段階のステップをお手伝いできたのではないかと思います。みなさん頑張ってください！！

看護副部長　長井　砂都美

再就業支援研修者の研修と臨床現場への受け入れを行って

平成26年11月26・27日、2日間にわたり再就職支援研修が行われました。
再就職支援研修とは・・・
1日目にオリエンテーション・講義、2日目に講義・実技研修・臨床現場での看護体験の日程で研修者3名の参加がありました。実技研修では採血やルートキープの手技、輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法などを行い、看護体験では各病棟スタッフの協力を得ながら、バイタルサインや清潔ケアなどを体験してもらいました。今回の研修を受け、臨床現場の感覚や技術を取り戻すことができ、現在使用されている医療機器の知識を習得することで臨床現場から離れていたことの不安軽減・自分に対する自信も取り戻す機会となったと思います。

包括ケア病棟　三宅

院外研修

「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」研修を受講して

今回、セカンドレベル看護管理者研修に9月5日から11月14日の期間、参加させていただき、33日間で5科目、23名の講師の先生より専門的な講義、演習を受けました。鹿児島県内の施設から参加した25名の受講者とのコミュニケーションの機会となり、それぞれの現場が、刻々と変化する鹿児島県内の状況を捉えながら、組織の構築、地域との連携作りなどに取り組んでいる様子がわかりました。例えば、超高齢化の先にある2025年問題や少子化対策など、医療から介護へ、病院から施設施設から在宅へとシームレスな看護ケアの提供を目指した地域との連携の強化を、それぞれの医療分野の専門職があらゆる視点で考え、一体となって取り組んでいかなければなりません。また、看護に関して、地域包括ケア病棟を導入する施設など、看護師の配置に関する病棟再編の動きも活発化しています。病院の使命を理解し、組織の一員として、自分の役割を果たすために何をするべきかを考え、実行していきたいと思います。

OP室　村尾

「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」研修を受講して

前期研修が、平成26年8月18日～ 9月3日の13日間　後期が、平成26年10月14日～ 10月30日までの14日間、鹿児島県看護協会の研修会に参加しました。今年度は募集定員が80名と増え、参加者の平均年齢は、43歳、男性看護師も15名と今までの研修と比較しても多い割合でした。

認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修は、認定管理者になる教育課程の最初の段階であり、看護管理概論看護サービス提供論グループマネジメント人材育成論など150時間かけて学びました。外来師長になり２年目を迎えましたが、１年目は機能評価受診があり、慌ただしく１年が過ぎてしまいました。２年目に入り、少し落ち着いてくると「師長の仕事とは？」「管理職とは？」「自分の役割とは？」改めて考える余裕が出てきました。今回研修に参加する機会を頂き、その疑問を解決するために研修に参加しました。研修では、看護管理者として必要な基本的な知識や姿勢・考え方を学び、今まで漠然としていたことが、研修を通して理解することができました。

今回の研修で講義内容はもちろんですが、研修参加者同士同じ管理者として不安や悩みを共感し合い、研修終了後前向きになる事ができました。同期の仲間ができ、鹿児島県全土にネットワークができたことは、私にとって一番の収穫であり大きな財産となりました。

外来　平

「がん看護認定看護師教育課程研修」を修了して

私は「自分の看護に自信がない。自信を持ちたい。そのためにはもっと知識を深めたい。」このような考えが、認定看護師を取得しようと思った動悸でした。

久留米大学での座学は、テストと課題が多く久留米名物の焼き鳥や焼酎を堪能する暇がなく、日々時間に追われていました。自分の課題だけでも精一杯でしたが、グループワークも重なりアサーティブなコミュニケーションをとることやコンセンサスを求めることの難しさに悩んだこともありました。実習では、患者とゆっくりと向き合い看護を提供しました。患者の症状一つひとつ文献を調べて、どのような看護介入ができるのかと必死に勉強しました。看護の奥深さを改めて知り、まだまだ知識が足りないと痛感した実習でした。無事に卒業しましたが、化学療法の知識を統合させ現場で生かすためにはもう少し時間が掛かりそうです。5月には本試験があり、まずは資格取得ができるように勉強していきます。

最後に、長期研修の認定看護師教育を受ける機会を与えて下さいました市民病院の病院長をはじめ、４東病棟スタッフの方々に感謝申し上げます。

4東病棟　濱田

「第15回日本クリニカルパス学会学術集会」に参加して

今回福井県にて開催された学会学術集会にポスター発表として参加しました。今までこの学会に以前勤めていた職場を含め幾度か参加しましたが、発表をしたのは今回が初めてでした。「急性心筋梗塞～患者用パスの改訂に取り組んで～」というタイトルで発表し、準備も含めて、久保師長と新里先生に協力して頂き、当日も学会会場まで同行して頂きました。患者用パスの運営が低迷している原因を分析し、患者用パスを心臓日誌という冊子形式へ改訂し、運用開始したところまでを報告しました。発表後、幾つかの質疑応答がありました。あまりもの緊張感でどんな質問が来たのか殆ど覚えていませんが、終始久保師長と新里先生に見守られ、かなり心強かったです。今後は、実際改訂版の心臓日誌を使用された患者様の声を反映しながら、さらなる患者用パス返却率の向上に努めたいと思います。また、発表したセッションで座長賞を頂くことができました。今回の発表は自分自身のキャリアアップにもなったかと思います。今後は後輩スタッフへの学会参加の協力を行い、キャリアアップの応援をしていきたいと思います。

4東病棟　西野

院内研修

「脳卒中リハビリテーション看護」3回の研修を終えて

10月・11月隔週土曜日の午後を利用し、3回シリーズで研修を行いました。半日コースという長い時間での集中講座でしたが、脳外科医師をはじめ多くのコメディカルスタッフに講師を依頼し、より専門的な知識を得る機会になりました。休憩時間も少なく、かなりのハードスケジュールで、受講された方々も大変だったと思います。しかし、専門病棟に限らず他の疾患で入院されている患者さんも、脳卒中を発症するリスクはあり、早期発見できるためには、より多くの方が基礎知識を持っていることが重要です。早期発見することにより行える治療の幅も広がります。今回受講したコアメンバーの方々が、少しでも講義内容を活かし看護につなげ脳卒中予防や早期発見できるよう期待しています。

回復リハビリ病棟：認定看護師　福永

12/16 医療安全研修

講師：城ノ下師長

医療安全研修は、看護師・アシスタントナースを対象に「チームＳＴＥＰＰＳのツールと戦略を学び使ってみる」について講義を行っていただきました。
「チームＳＴＥＰＰＳ」とは、チーム構成を理解しリーダーシップ・状況観察・相互支援・コミュニケーションを確実に行う技術を活用することで、医療の質や安全・効率を改善したチームワークシステムであり、患者安全文化の醸成を目指すものです。研修時のグループワークとロールプレイを通して、「実際に現場で行っている報・連・相の方法であり、再確認することができた」「業務に追われ、コミュニケーションが不足していた」などの意見が聞かれました。患者の安全を第一に考え、良好なチームワークが図れるように、チームＳＴＥＰＰＳを活用していきましょう。

3西病棟　福園

11/11　ランニング研修『リーダーシップ研修』

講師：
4東病棟　尾ノ上、中森看護師

今回、リーダーシップをテーマにランニング研修が行われ、11名が参加しました。
研修では、リーダーシップ、リーダー論は多様にあり、自分のなりたいリーダーを目指すこと、また憧れている先輩看護師を目指すことも良いと指導されました。リーダー例として、アニメのキャラクターを提示する場面もあり、リーダー像が想像しやすかったという意見も聞かれました。グループワークでは、自分の看護観リーダー像について話し合い、事例を元にシミュレーションを実施しました。リーダーとしてどのように判断してメンバーへ指示を出していくか、それぞれ意見を出し合う中で、以前学習したコーチング技術も生かせていたように思います。自分の抱くリーダー像に近づけるよう、これからも努力していきましょう。

OP室　田代

12/2　アシスタントナース「フィジカルアシスメント」研修

講師：
集中ケア認定看護師　猿楽

介護福祉士を対象としたフィジカルアセスメント研修が行われました。介護福祉士へフィジカルアセスメントをどの様な視点で講義されるのか興味がありました。講義内容で介護福祉士は、日々患者の近くにおり、患者の変化を察知し「あれ？いつもと様子が違う。看護師に報告しよう」と気づき、行動ができるようにしてほしいと言われました。その気づきの報告が“ある、ない”によって患者のその後に大きく影響することも考えられます。実際現場で実践出来ているとは思いますが、今回の研修を受けたことでより専門的な内容で報告行動できることを期待し、一緒に頑張っていきましょう。

回復リハビリ病棟　満園

12/11　スターティング研修「SP研修」報告

スターティング研修でSP対応研修（模擬患者対応研修）が行われました。①癌の診断を受け、手術を2日後にひかえ不安を抱える患者への対応②C型肝炎・肝硬変で腹水貯留し、塩分制限があるものの、なかなか守れない患者への対応。この2つの症例で行われました。

実際に初めてお会いする一般の方の前での演習であり、緊張の中新人3名が実際に演習を行い、模擬患者からフィードバックして頂き、振り返る事でコミュニケーション技術を学ぶ事が出来ました。患者の気持ちを考える事、声のトーン、表情など｣コミュニケーション能力を高めることの難しさが実感できたのではないかと考えます。また、他の看護師の対応を客観的に見る事で、自身の振り返りができたという感想も多くあったので、これから臨床での経験に活かしていって欲しいと思います。

3東病棟教育委員　下麦

11/28「認知症看護」伝達研修＆「ユマニチュード」DVD上映会を実施して

「ユマニチュード」DVD鑑賞会が行われました。近年注目を浴びているユマニチュードについて学びました。スタッフ計66名、看護師だけではなく、リハビリスタッフの参加もあった事は、注目度の高さを感じました。

認知症で有名はアルツハイマー型認知症だけではなく、レビー小体型認知症も発見されており、複数の型に分類され、症状によって対応も異なる事を改めて学びました。

認知症により、理解が乏しくなったり、感情表現が上手くできなくなったり、様々な症状を呈し対応に困る事が多いように思いますが、このユマニチュードをスタッフ全員が理解し体得できた時、その患者を始め、私達スタッフや患者の家族の心の負担も減り、快適な療養生活を送れるようになるのではないかと思います。是非一度興味を持って頂ければ･･･と思います。

3東病棟　下麦

ミニナラティブ

私は看護学生時代別の病院に勤めていました。准看護学生時代の医療行為はほとんどできないため、雑用のような仕事が多かったと思います。その分患者さんと触れ合う時間はたくさんありました。入院患者の中に、あるおばあちゃんがいました。その方は話しかけても返事がなく、すぐそっぽを向いてしまう方でしたが、私ともう一人の学生と二人でよく会いに行きました。続けているうちに、少しずつ話をしてくれるようになり「あんちゃん」「ねえちゃん」と呼んで笑ってくれるようになりました。先輩看護師さんから「〇〇さんがあんなにしゃべったり、ニコニコしているのは見たことがない」「ほとんど部屋からも出てこなかったのに二人のおかげだね」と言われました。実習に入り、会う機会が減った時には「あんちゃんは？」「ねえちゃんは？」と気にしてくれていたようです。それを聞いてまた二人で会いに行くと、はじめは興味がないような態度を見せましたが、またニコニコ嬉しそうにしてくれました。卒業し、病院も変わり、なかなかゆっくりと患者さんと接する機会を取れなくなりましたが、手術室に勤務するようになり、手術室スタッフの患者・家族看護に対する意識の高さ、向上心に驚きました。私も患者さんにとって身近で頼りになる存在になれるように頑張っていきたいと思います。

OP室　税所

マイブーム

2014年の病院忘年会、3階西病棟の出し物はどうだったでしょうか？まきっしー（ふなっしーもどき）はどうでしたか？あれはなんとすべて手作りです。スタッフからみんなで作ろうと言われ、頑張ったものです 。スタッフからもらった黄色いバスタオルと病院内で不要となったドレープがまさしくふなっしー色にマッチし、インターネットで作成方法を参考にして作りました。顔の部分を作成しただけでふなっしーになり、目を付けそれで満足しました。胴体と足の作成が一番大変でした。まさか着ぐるみを自分が作れるとは思っていませんでしたが、とてもいい思い出になりました。現在はあるスタッフの家で眠っているそうです。

私は小さい頃から色々と物を作ることが大好きで裁縫や物を作っていました。上手くはないですが、ストレス解消になっています。

今はリメイクしたり、小物を作る事にはまっており、最近では材料がセットになっている物も多くみられすぐに作れて便利になっています。

子供が妖怪ウォッチのコマジロウが好きで、背負っている風呂敷包みを作って欲しいと言われ、先日、ポーチ式のバックを作成しました。子供も喜んでいましたが、唐草模様は恥ずかしいんじゃないかと思いますが･･･?ただの自己満足ですが、物を作る事が楽しく自分の趣味をこれからも続けていこうと思います。

3西病棟　幸得

編集後記

2015年は未（ひつじ）年。「未」という字は、枝が茂っている木の形でまだ枝が伸びきっていない部分を描いたものだそうです。本来の読みは「み」まだ熟しきらない成長途上を表しています。つまり、未熟であるということ。そのことを念頭に置き成熟できるように行動を起こしていきたいものですね。

（小牧）